

薬学部・薬学研究科の概要

薬学部は、1964（昭和 39）年に「質の高い薬剤師ならびに優秀な研究者・技術者を養成すること」を目的として、北里大学の 2 番目の学部（薬学科 1 学科）として設立された。翌年の 1965（昭和 40）年には、製薬学科を増設した。2006（平成 18）年には、薬学教育年限の延長にともない、「高度化した医療現場で活躍できる薬剤師の養成」を目的とした薬学科（6 年制）と「薬学関連分野の研究者や教育者など、薬学周辺領域で活躍できる人材の養成」を目的とした薬科学科（4 年制）の 2 学科を併置した。2010（平成 22）年、薬科学科は生命創薬科学科へと名称変更し現在に至っている。

薬学研究科は、高度な生命科学の精髓を極める専門教育の場として、1968（昭和 43）年に薬学専攻修士課程をもって発足し、1973（昭和 48）年には博士後期課程を開設した。開設当初から、「生命科学に関する最先端の基礎研究を重視」して、10 を越える専門分野の教育・研究を展開しつつ、1973（昭和 48）年には、修士課程に日本初の臨床薬学専門分野を開講し、臨床薬学の実践的教育・研究を大学院の教育課程に取り入れた。1977（昭和 52）年には臨床薬学研究室を開設、さらに、1995（平成 7）年に臨床薬学研究室の機能を充実拡大するため、薬学部附属臨床薬学研究センターに組織変更した。1999（平成 11）年度から「薬学履修コース」、「臨床薬学履修コース」及び「臨床統計学履修コース」からなるコース制を敷くことで教育・研究の特色を一層鮮明にした。臨床統計学履修コースは、わが国での臨床統計学の確立及び専門家の育成を目指して開設されたコースである。2006（平成 18）年度には、社会人を対象として、新薬開発分野で国際的に活躍できる高度専門家を育成することを目的とする「医薬開発学履修コース」を開設した。

薬学 6 年制教育の進行に伴い、2010（平成 22）年には修士課程に薬科学専攻「薬科学履修コース」を設置し、その後、2012（平成 24）年に博士課程薬学専攻「薬学履修コース」（修業年限 4 年）及び博士後期課程薬科学専攻「薬科学履修コース」（修業年限 3 年）を設置した。大学院の改組に伴い、「臨床統計学履修コース」及び「医薬開発学履修コース」は薬科学専攻へ組み込まれ、現在に至っている。

2008（平成 20）年度から 2021（令和 3）年度まで、本学が文部科学省から選定された「がんプロフェッショナル養成プラン」の一環として、博士後期課程に社会人を対象としたがん専門薬剤師の養成を目的とする「医療薬学—がん領域—履修コース」を設置した。

本学部及び本研究科では、これまでに 16,345 余名の薬学士、1,710 余名の修士、141 余名の博士を輩出し、これら卒業生・修了生は社会の第一線で活躍している。

2006（平成 18）年度からスタートした 6 年制薬学教育では、新たに 11 週にわたる長期実務実習が加えられた。本学では、関連病院の薬剤部長が薬学部教授あるいは准教授を兼務する教育体制が構築されており、臨床薬学研究・教育センターには 32 名の薬剤師免許を有する臨床教員が在席し、そのうち 16 名が付属病院薬剤部に配置され学部の講義・実習とも

に実務実習を担当する。6年制薬学教育の中でも極めて重要な病院実習を、希望する全ての学生が附属病院のいずれかで履修できる環境を整え、さらに薬学部教員が責任をもって教授する教育体制は、他の薬系大学では実施できない本学部の大きな特長である。さらに、臨床薬学研究・教育センターには2名の医師が専任教員として配置され、学部の講義と事前実習を担当している。

本学部では、一般教養や薬学的専門知識・技能・態度を修得する教育に加えて、医療人としての倫理観を醸成する教育にも力を入れている。一般教育部と連携した「倫理学」のみならず、薬学専門科目としての「医療倫理学」、医療現場を体験する「薬と仕事Ⅰ」、災害時医療や救命処置について学び、小グループでの討論や実技を中心に進められる「社会薬学実習」、附属病院を活用した「病院実習」や「医療ボランティア実習」などを通して、高い倫理観の醸成を図っている。その中の一つで2年次に開講される「社会薬学実習」では、災害時の初期対応や医療活動、傷病者に対する救命処置、医薬品等による健康被害を題材とした事例検討などを通して、学生に「いのち」と「医療プロフェッショナリズム」について考えさせる。この実習内容は文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」（2008（平成20）年度）に選定され、高い評価を受けている。

一方、薬学部、医学部、看護学部、医療衛生学部、保健衛生専門学院、看護専門学校の学生が一堂に会して討議・発表を行う「チーム医療演習」、附属病院における「チーム医療病院実習」も医療人養成を重視する本学の大きな特長である。その他にも、特色ある教育として、薬学部附属東洋医学総合研究所や北里研究所病院と連携した「漢方医薬学履修プログラム」があり、「生薬学」や「東洋医学概論」等の講義に加えて、「漢方調剤実習」を行っている。また、健康食品に関する教育として「NR・サプリメントアドバイザー」や「健康食品管理士」の受験資格を取得できるカリキュラムを実施している。

研究面では、2007（平成19）年度から5年間にわたり文部科学省のハイテク・リサーチ・センターに選定され、2013、2014（平成25、26）、2016（平成28）、2020（令和2）年度には文科省研究設備整備費等補助金を受け、研究機器を整備し、医薬品の研究・開発に関わるプロジェクトを推進している。さらに、本学薬学研究科と東京医科歯科大学、お茶の水女子大学、学習院大学の4大学大学院が連携して大学院教育を高度化する取り組みは、文部科学省「戦略的大学連携支援プログラム」（2009～2011（平成21～23）年度）及び「大学間連携共同教育推進事業」（2012～2016（平成24～28）年度）に選定された。その後も継続して各大学大学院の特色ある科目や研究を共有することで、幅広い視野を持った生命科学・創薬科学研究者を養成する計画を推進している。

2015（平成27）年には、北里大学特別栄誉教授で、元薬学部教授の大村 智 博士が、ノーベル生理学・医学賞を受賞した。大村博士の受賞を契機として、創薬・生命科学研究の更なる発展が期待される。